

「働き方関連法案は明らかに経団連の要望に基づいた物では？」

平成30年7月4日

●三毛猫さんからの質問

今国会の重要な法案としての働き方関連法案ですがこの制度は明らかに働く側のニーズではなく経済界即ち経団連の要望に基づいた物ではなかろうかと思えます！働く側のヒアリングも大幅に不足しており政府の焦りも感じられます！現在の日本の格差社会に拍車をかけている黒幕は経団連はじめ安倍政権を取り巻く新自由主義者そのものではないのかと感じられます！安倍政権には国民の声を真摯に耳傾ける気持ちが感じられない！政局一辺倒の野党側の不始末に政権は助けられている！まともな保守野党が誕生することや公明党の反発を招けば政権与党の転落は免れない！まずは健全な反グローバル的な草の根保守野党を育てていくことが大切ではないでしょうか？

●西田昌司の答え

国民民主党や立憲民主党といった野党の皆さんが反グローバル的な姿勢で安倍政権を正しく批判していただけると良いのですが、残念ながらそういった視点でしっかりと議論をできるのは自民党しかないというのが現状です。働き方改革についてはこれまでに党内で大変に激しく議論をしてきました。

過剰労働をなくして過労死を防ごうというその方向性に異を唱える人は誰もいませんが、残業時間を減らすことで手取りの給料が減ってしまうと、（給料を上げようと頑張っている）安倍政権の進むべき方向と真逆の改革になってしまう懸念があります。従って、残業時間を減らしても給料が下がらないような方策が是非とも必要なのです。それを法律でやろうとすると最低賃金を上げるといったことくらいしかありませんが、内部留保を貯め込んでいる大企業には問題がなくとも、余裕のない中小企業は賃金を払えなくなっ

て倒産するところがたくさん出てきてしまうでしょう。また、残業規制を法制化してしまうと、これまでは「目安」として大目に見られていたものが違法となってしまう、労働基準監督署によって行政処分をされる企業が続出するような事態になるとこれもまた大変な問題です。

大企業は内部留保をたんまりと貯め込んでいる状況ですからもっと給料を上げられるはずですし、利益の追求だけでなく公益に資するのが企業の矜持であるという気概を持っていただきたいです。春闘による賃上げだけでなく、下請けの中小企業に払うお金を出来るだけ安くするために過当競争を強いるといった発想から解放されたもっと大らかな姿勢を期待したいところですが、それが無理であるならば、法人税率を上げて大企業から徴収したお金を中小企業に分配するという方法もあります。何れにしても、給料が上がるような環境をいかにして作るかが最重要課題なのです。

そのような問題意識に呼応したのか先日、アルプス電気が、減らした残業代の一部を賞与で還元するとのニュースを朝日新聞が報じました。働き方改革で減った残業代の一部を賞与に上乘せして支給し、社員に還元するという内容ですが、これこそまさにあるべき働き方改革です。このような視点からの議論が野党側から全く聞こえてこないのが残念ですが、自党内ではそのような議論が活発にされています。

ところで、高度プロフェッショナル制度についてですが、タイムチャージをなくして出来高で給料を払うのは過労死の元になるのではないかという批判があります。確かに、全ての労働者にそのような制度を適用すれば大変なことになってしまいますが、年収 1075 万円以上のアナリストやコンサルタントなどの一部専門職に限った制度としていますし、さらに会社と労働者が交渉して決めるとしています。

昔から「職人」と呼ばれる方々がいますし、京都でも友禅職人がいますが、こういった方々は腕一本でサラリーマンよりもずっと高い所得を得ていました。そういった「職人」の方々が今の時代に「高度プロフェッショナル労働

者」として位置づけられるのだと考えれば、この制度をもっと大らかに受け入れることもできるはずです。

働き方改革の方向性として、企業側の論理を優先して労働者を冷遇するようなことがあってはなりません。日本の社会にグローバリズムや新自由主義を蔓延させてはならないと考える議員は自民党にたくさんいますし、野党にもそういった問題意識を共有されている先生方もたくさんいると思います。しかし、野党側からまともな議論が聞こえてこないのは非常に残念に思いますし、野党に頼れないのであれば与党である自民党内で議論をしっかりとするしかないのが現状です。

国会の議論はテレビ中継等を通して国民に伝わっても、党内の議論は残念ながら国民になかなか伝わりません。どの議員がどんな発言をしているのかについて国民は詳しく知ることができませんが（私が働き方改革に対して反対意見を述べたといった記事が多少はありました）、自民党内で活発な議論がされて働き方改革についても様々な修正がされていることをどうかお知りおきください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>